

## ダニ媒介性疾患に注意

～春から秋にかけ、マダニの活動が活発になります～

### ー全国ー

○マダニに咬まれることで病原体に感染し、日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群（SFTS）などの病気にかかり、重症化することがあります。

○マダニは比較的大型（吸血前で3～4mm）のダニで、主に森林や草地等の屋外に生息し、日本でも全国的に分布しています。



ヤマアラシチマダニ

写真提供：医学博士 藤田博己氏

### ー熊本県ー

○本県では、日本紅斑熱やダニの仲間であるツツガムシの幼虫の吸血によって感染するつつが虫病が毎年複数例報告されています。

○外出するときは、以下のダニ予防に努めましょう。

### 【ダニ媒介性疾患の予防対策】

- ① マダニに咬まれないことが重要です。
- ② 森林や草地などマダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴などを着用し、肌の露出を少なくすること。
- ③ 屋外活動後はマダニに咬まれていないか確認すること。
- ④ 吸血中のマダニに気がついた際は、速やかに病院で処置すること。
- ⑤ マダニに咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、病院へ受診すること。

※マダニは、衣類や寝具に発生するヒョウダニなど家庭内に生息するダニと異なります。

### 《ダニ媒介性疾患》

#### 1. 日本紅斑熱

○症 状：発熱、発疹、刺し口が主要三徴候であり、倦怠感、頭痛を伴って発症する。発疹は体幹部より四肢末端部に比較的強く出現する。

○潜伏期間：2～8日

○治 療 法：抗菌薬の投与

#### ■熊本県での発生状況

年	H20	H21	H22	H23	H24
発生件数	18件	16件	8件	20件	22件

(参考) 熊本県保健環境科学研究所ホームページ

<http://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/35/nihonkouhan.html>

## 2. つつが虫病

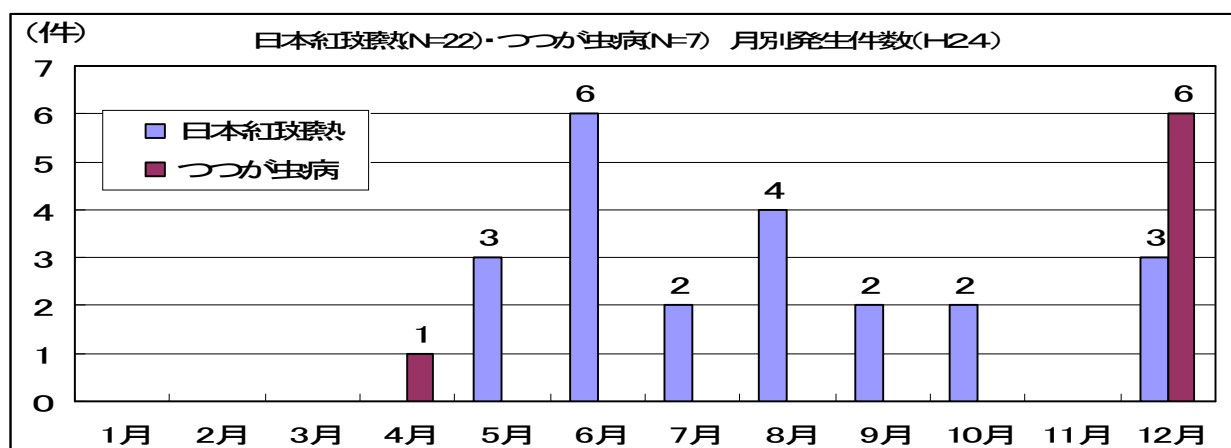
○症 状：典型的な症例では、39℃以上の高熱を伴って発症し、皮膚には特徴的なダニの刺し口が見られ、その後数日で体幹部を中心に発疹がみられる。また、患者の多くが倦怠感、頭痛を伴う。

○潜伏期間：5～14日

○治 療 法：抗菌薬の投与

### ■熊本県での発生状況

年	H20	H21	H22	H23	H24
発生件数	6件	6件	11件	8件	7件



## 3. 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

2011年に初めて特定された、新しいウイルス(SFTSウイルス)に感染することで起こる病気です。これまで中国での症例が報告されていましたが、先般国内初めての患者が確認されました。

○症 状：原因不明の発熱、消化器症状(嘔吐、下痢等)が中心です。時に、頭痛、神経症状(意識障害、けいれん等)、呼吸器症状(咳等)、出血症状(紫斑、下血)を起こす。

○潜伏期間：6日～2週間

○治 療 法：有効な抗ウイルス薬等はなく、対症療法が主体となる。

(参考) 厚生労働省ホームページ

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002u1pm.html>

健康危機管理課 感染症・新型インフルエンザ対策班 担当：友枝、財津  
直通：096-333-2240 内線：7084、7080